



現在の様子

= 51 =



めがね (沼川石水門) せきすいもん

昭和41年1月21日
(沼川橋、防潮水門)



みんなから親しまれ続けた石水門

昔の沼川は、暴風雨のたび港から高波が押し寄せ、川の水が逆流して増水し、あたり一面の作物に甚大な被害を出しました。そのため、江戸時代末期から村人が何度も防波堤を築造しましたが、暴風雨で破壊され続けました。苦勞の末、明治18年、静岡県で初めてセメントを使つてつくった石水門が完成。この六連型アーチ状の石水門は「六ツ眼鏡」と呼ばれ、みんなから親しまれてきました。

私の先祖が当時被害を受けていた農家だったこともあり、私は石水門などの郷土の歴史について調べました。私が商売をしている沼川橋東側の港商店会も、昔は田んぼだったんですよ。

私が小学生だったころは、夏になると度胸試しで友達と「六ツ眼鏡」の橋の上から海に飛び込んで遊んでいました(笑)。また、台風の後には、「六ツ眼鏡」前の港口にたまった土砂を、村人みんなで取り除いたことも覚えています。

その後、田子の浦港が開港して、昭和41年12月に「六ツ眼鏡」が撤去されたときはとても寂しかったですね。

私は、これからも、郷土の歴史を勉強して、先人の思いが詰まった「六ツ眼鏡」の歴史とともに、後世に伝え続けていきたいです。



郷土の歴史を後世に伝え続けていく
川島 徳彦さん(鈴川町)

こちら編集室

「はい、笑って〜!」と、カメラを向けて、お願いしたわけではない。皆さんは自然と笑顔になっていた。特集の取材で、工作中的のシルバー人材センター会員の皆さんにお会いし、同じ質問をした。「なぜ働くのですか?」皆さん示し合わせたように同

じ答え。「自分の健康のため」「だれかの役に立ちたいから」。家族のために、会社のために、がむしゃらに働いた時期もあっただろうし、だからこそ世の中は回っていくと思う。でもいつか、こんな温かな笑顔が浮かぶような気持ちで働いたら… (り)

人口	244,163人	(前月比+23)
男	121,078人	(+10)
女	123,085人	(+13)
世帯	89,546世帯	(+176)

5月1日現在
編集・発行 富士市総務部広報広聴課
〒417-8601 静岡県富士市永田町1-100
☎0545-51-0123(代) ☎0545-51-1456

平成20年6月5日号(毎月5日・20日発行)